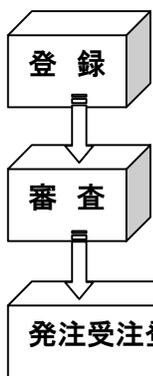


みなさん、こんにちは中村です。梅雨空の中、お元気でご活躍のことと思います。新宿警察署の東南のスペースに可愛いヤマモモが実をつけています。高知県の県の花。造園業のどなたが担当され、山桃を植えられたのでしょうか？サッカーのU-20日本代表は、2日カナダで開催されているU-20ワールドカップのグループリーグ初戦でU-20スコットランド代表と対戦し、3-1の勝利を収めました。日本は試合開始直後から良いリズムで、前半終了間際に先制点を挙げ、後半13分、同35分に追加点をいれ3点を獲得。3対1で初戦を勝利しました。次はコスタリカと。

## ビジネス・マッチング・ステーションサービス

中小企業者に仕事の機会がより多く恵まれるよう本年4月よりビジネスマッチングステーションと称するインターネットを介した登録利用無料の会員制のシステム運営が開始されました。このシステムサービスは財団法人 全国中小企業取引振興協会により運営され利用者は「所在地」「技術」「保有設備」など様々な検索機能により希望条件等を絞り込んで発注情報、受注情報を検索利用することができます。またこのサービスを利用することにより、「物品」「工事」「役務」に関する最新の官公庁発注情報を得ることや、各都道府県協会の取引あっせんもうけることができます。

### 簡単な流れとシステムの内容



企業名・資本金・業種・連絡先など基本的な情報を登録します。登録の際に一部情報を非公開にすることも可能です。また、写真等を持ちいて会社の技術・セールスポイントなどPRすることができます。この時点では仮会員となります。

登録約1週間後、審査を経て正会員となり、ID及びパスワードが発行され本システムの利用が可能となります。

- 発注サイド 具体的な発注内容(数量・単価・納期等)を登録。又は希望受注先を検索することも可能。
- 受注サイド 希望条件検索により受注したい情報を入手申込、又は受注したい内容を登録し発注希望者を募ることも可能

ビジネスマッチングシステムサイト <http://biz-match-station.zenkyo.or.jp/>

サービス開始2ヶ月後時点で登録企業が1万5千社を突破したようです。発注先・受注先の開拓手段のひとつとして今後ご利用されてみてはいかがでしょうか？ (佐久間)

## =リーズ建設業Q&A



Q. 決算変更届作成のポイントは？

A. 工事経歴書、直前三年工事施工金額、財務諸表、納税証明書は、毎年提出しなければならない書類です。使用人数や定款などは変更があった場合のみ提出することになります。

決算変更届は、提出義務があるだけでなく、自社の最新の情報を発注者や一般市民に知らせることができるという点を意識する必要があります。たとえば、発注者はどういうところなのか、官庁が多いのか、どんな工事を施工しているのか、特定の工法・技術だけなのか多様なのか、工事の規模は大型工事なのか、小規模工事を数多く受注しているのかなど、詳細な情報を載せることがポイントです。義務を負っているから提出するのではなく、広告する機会を与えられているのだから、過去の実績や能力を正確に記載して公開するという意識をもって作成することが大切です。

また、許可の有効期間が5年になったこととともない、決算変更届を毎年提出していないと、許可の更新を受け付けられないとする行政庁があります。このため、決算変更届は毎年必ず提出し、許可要件について緊急事態が生じても代わる者がいるかなどをチェックしておくことが大切です。(粟原)

## マルウェアとは？

「malicious software」の略。maliciousとは「悪意のある」という意味なので、文字通り「悪意のあるソフト」を指す。ウイルスのほか、「ユーザーにとって迷惑なソフト」も含めたものになる。最近になってマルウェアという言葉が使われるようになった理由は、ウイルスなどの従来の定義ではくくれないグレー・ゾーンの「迷惑ソフト」が増えてきたからだ。一般に「ウイルス」とは、ユーザーのパソコンに危害を加えるソフトを指す。ところが最近では、こういったウイルスのカテゴリに当てはめにくい「迷惑ソフト」が増えている。望まない広告を無理やり表示するアドウェア、海外などに勝手にダイヤルアップ接続してしまうダイヤラ、といったソフトがその代表例だ。そのほか、スパム・メールを送信するポットや、オンライン・バンキングのログイン情報を盗み出すスパイウェアといった利益目的の不正プログラムも増えている。さらには、インストール時にユーザーの許諾を取るものもある。このように、従来のウイルスとはまったく異なるタイプのソフトウェアだが、どれも、(1)情報を盗む、(2)勝手に利用する、(3)破壊する、(4)勝手なことをする のいずれかの行動をとる。ユーザーにとって受ける被害に本質的な差はない。

実際のプログラムの動作を見ても、ユーザーをだまして実行させたり、レジストリを書き換えてパソコン内で常に活動するようにするなど、手口も似てきた。実際に、これらの不正ソフトからパソコンを守るには、それぞれ個別に対策をとるよりも、まとめて扱ったほうが対策を立てる上でやりやすいという事情もある。

そこで、ウイルスや迷惑ソフト、スパイウェアなどを一括りにして、悪意のあるソフトウェアすべてを「マルウェア」を呼ぶようにしたわけだ。(藤田)